

改憲・くらし破壊に抗する国民的共同を

8月3日から5日までの3日間
で「第55回自治体学校イン新潟
みんなで作るホンモノの地方自
治」が、新潟市にある朱鷺メッセ
の国際会議場で行われました。釘
丸久子・栗山香代子議員が参加し
てきました。

幕開けは、地
元の龍泉会「え
ちこせきかわ太
鼓」の勇壮なば
ちさばきです。



記念講演は、

渡辺治氏（一橋大学名誉教授）

「参院選の結果と安倍政権」

参院選の結果は何を示すか

氏は、選挙結果が示す3つの特徴を指摘します。①自民党の圧勝、得票率の増、②民主党の引き続く後退による2大政党制の崩壊と、第3極（維新の会等）の後退、③共産党の躍進、前進の芽の開花。この3つの特徴はバラバラではないと言い切ります。



20年続いた構造改革政治の行き詰まりに対して、政権交代で期待を持たせた民主党の裏切りに対する国民的な

怒りは大きなものでした。「アベノミクス」は、構造改革路線の流れの中にあり、その路線を否定する共産党の対案への注目、期待の結果でした。

「アベノミクス」の強行でくらし、社会保障はどうなる改憲、軍事同盟強化は

選挙の勝利に浮かれた安倍政権は「アベノミクス」を強行します。生活保護の改悪、TPPで地場産業をつぶして地方を解体し、その一方で公共事業を拡大し、大企業の利益を図ります。

勢いづく財界は、さらなる構造改革の要求、消費税増税、原発再稼働への圧力を強めてきます。

社会保障の改悪はまず生活保護費の削減に始まり、社会保障についての国と自治体の責任を縮小し、民間企業の市場に開放していきます。

「戦争できる国家」づくりは解釈改憲でじわじわと行い、その後から「戦争する国家」づくりのための明文改憲を狙います。

現憲法の「戦争しない国」を前提にした根本転換をし、さらに秘密保護法制、軍法会議や緊急事態の規定、反戦運動や言論規制なども法制化しようとしています。

おこれる自民の暴走が始まっています。

くらし破壊、改憲を阻み福祉を実現する国民運動を

安倍内閣の構造改革、改憲の大風を吹き飛ばされそうですが、渡辺氏は「構造改革・改憲は阻むことができる」と断言します。

60年安保の時と今の運動の形態が違う。当時は国会で社会党が160議席もあり、労働組合が元氣だった。運動は東京・大阪・京都でしか行われなかった。

現在は、①新しい国民的共同が広がっており、市民運動が地域に

無数にある、②脱原発、TPP、消費税など全国的な運動の広がりがある、③女性のパワーが大きい、と3点をあげました。

そして、国民の多数を結集するために、9条改悪反対、原発再稼働反対、TPP反対で、今まで共闘しえなかった層、保守の人々とも一点で国民的共同をつくっていくことが大事だと強調します。

地域に根を張った運動がきめ細かく展開されており、それが大きく結集できたときに、改憲を阻み、福祉を実現する国民的運動につながると強調しました。

そしてそれを確かなものにするために、構造改革に抗する対案を、財源も含めて提案することが重要です。保守も革新も共同して大きな国民的運動の展開を、今回の自治体学校の参加者が牽引車となって奮闘するよう、呼びかけました。

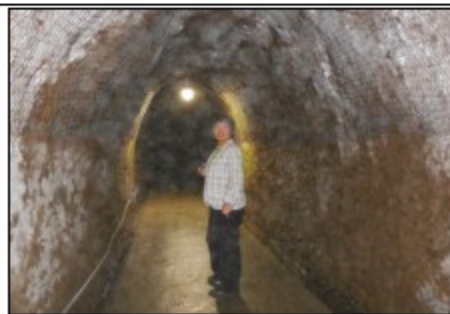
自治体学校では毎回宿題が出されます。

話題あれこれ

自治体学校編

手掘りのトンネル 中山隧道

山古志村では、冬は豪雪で陸の孤島となり、医者に行くにも山を越えなければなりません。住民がつるはしで掘った長さ900メートルの中山隧道。昭和の初期から掘りはじめ、戦争で中断しましたが、17年もかけて山をくりぬいたそうです。手掘りの鑿跡もくっきり。中は陽の光が届かないので、所々電灯があるものの、真っ暗で寒かった。



平成18年度には土木学会選奨土木遺産に選ばれました。

やはり米どころ、ご飯が美味

自治体学校の初日の夜は会合紹介のお店で夕食。最後に食べた、ご飯はふっくらとして光り輝いています。味噌汁の新潟ワカメは薄くても香り高い。手作りのお漬物が6種類も。やはり、米どころ新潟のご飯でした。駅では土産用に2合入りのお米も販売していました。もちろんお酒も。

今週の活動から



第55回自治体学校イン新潟の看板の前で。毎年参加していますが、改めて「ホンモノの地方自治」の重要性を認識しました。われわれは何をなすべきかを問いかけられた研修会でした。中越地震で、全村避難、全村復帰を果たした山古志村の「現地分科会」も意義あるものでした。（2面）（右：釘丸久子議員、左：栗山香代子議員）